

# 坂田郡の中世城館

## 中世の城

滋賀県教育委員会では、昭和五十七年から九年間にわたって、遺構の遺る城郭や、地名や伝承の残る城郭の分布調査を、県内全域で行いました。その結果、驚くべきことに、県内には千三百を超える城郭が存在することがわかりました。

一般的に「城」というと、彦根城や姫路城のように、荘厳な石垣や華麗な天守が備わったものを思い浮かべられる方が多いことと思います。これに対して、安土城築城以前の戦国時代に築かれた城というのは、土地を切ったり盛ったりして、建物などが建てられる平坦地を作り、その周囲に土塁や堀切といった防御施設を配したもので、「城」という文字のとおり、「土」から「成」るものでした。こういった城を「中世城館」と言い、県内で確認された千三百超の城のうちの大部分を占めます。

氏は佐々木氏嫡流として近江守護職を伝統的に継いでいきますが、鎌倉幕府滅亡から南北朝時代における京極導誉の活躍もあって、次第に京極氏が台頭し、室町時代には湖北三郡の守護権と飛騨・出雲・隠岐の守護職を有して本家である六角氏の力をしのぐようになりました。戦国時代の幕開けとなった応仁文明の乱の中では、京極持清が六角氏に変わって近江一国守護に任じられ、京極氏の勢力を大きく伸張させました。

しかし、文明二年（一四七〇）に持清が死亡すると、一族内で争いが起こり、江北は内乱状態に陥りました。この内乱は永正二年（一五〇五）、日光寺の講和によりようやく終結し、以後、京極高清が上坂氏を執権的立場において安定した政権を築きました。

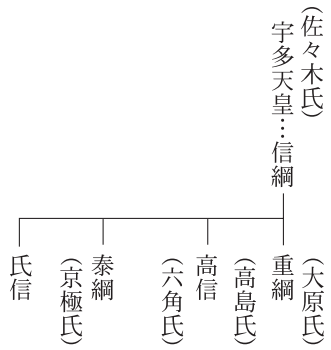
## 京極氏の城館

### 京極氏館【国史跡】

坂田郡伊吹町上平寺

現在、私たちがこうした「中世城館」があった地を訪ねると、建物自体を確認することはできませんが、土塁・曲輪・堀切などが今も良好に残っているのを見ることができるとは幸いです。

京極氏・六角氏系図

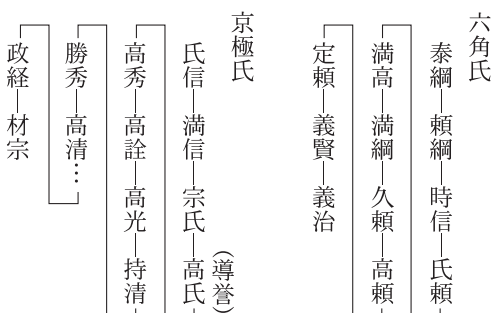


京極氏館跡平面図

京極氏館は、日光寺の講和により一族の内紛を収めた高清が江北支配の拠点として整備しました。高清は鎌倉時代より京極氏の拠点であった柏原館を廃して、新たに、この居館とともに家臣屋敷や城下町を造営しました。また、館には武家の儀礼の場としての庭園が整備され、館背後の山上には有事の際に用いるために上平寺城を整備しました。このような、居住空間、儀礼の場、防衛空間といった構成は幕府の御所や

## 近江の戦国時代① 京極氏と六角氏

鎌倉時代、近江守護職を代々世襲していた佐々木氏は信綱の息子の代に四氏に分流し、大原氏、高島氏、六角氏、京極氏となりました。このうち、六角



京極氏館跡庭園跡



細川管領邸にも見え、京極氏が幕府と同質の公権力を有していたことがわかります。大永三年（一五二三）、上坂氏の専横に対して浅見・浅井氏がクーデターを起こすという事件が起きました（大吉寺梅本坊公事）。京極氏館はこの時に焼失し廃絶したと考えられています。

## 上平寺城【国史跡】

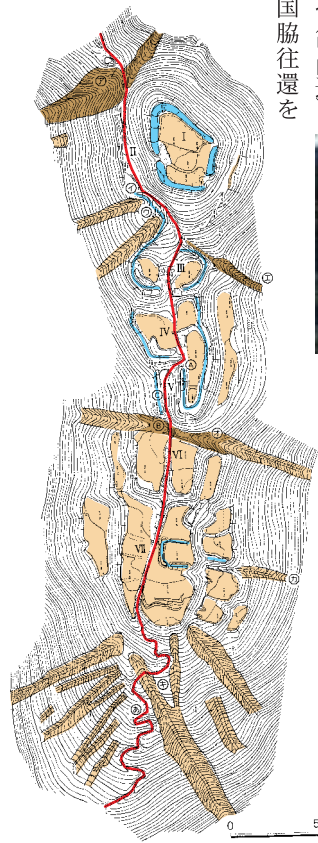
坂田郡伊吹町上平寺

京極高清が山麓に館を構えたときに、戦に備えた「詰の城」として整備したのが、上平寺城です。北国脇往還を押さえる要地にあることから、高清の築城以前に砦あるいは寺院遺構があったと考えられます。

大永三年の家臣団のクーデターにより、京極氏館は北近江の守護館としての機能を終えますが、上平寺城は東山道(中山道)と北国脇往還を



上平寺城跡主郭



上平寺城跡平面図

見下ろすことができ、北近江と関ヶ原盆地・濃尾平野を一望できる絶好の拠点であったことから、近江と美濃の「境目の城」として機能していくことになります。

特に、元亀元年(一五七〇)、浅井長政は織田信長の侵攻に備えるために、同盟国である朝倉氏の築城技術を導入して大規模な改築を行っています。しかし、城番であった堀秀村と樋口三郎兵衛らが信長に内応してしまったために、上平寺城は戦わずして開城となり、

以後、廃城になったと考えられます。現在見られる遺構はこの時のもので、尾根を断ち切る巨大な空堀や、放射状に堀を巡らす畝状堅堀により周囲を守り、尾根上に土塁で囲んだ郭を配する典型的な中世の山城です。

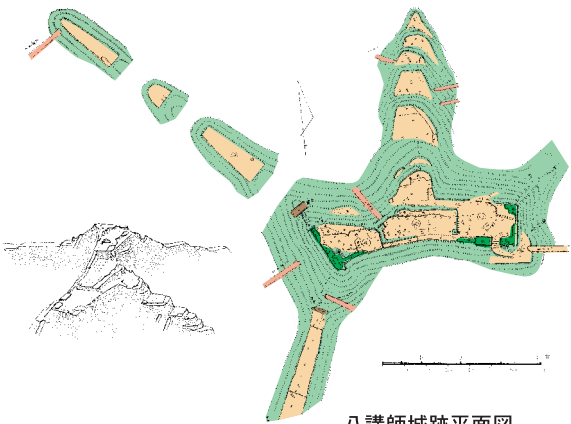
## コラム 境目の城

坂田郡は畿内・北陸・東海との結節点にあり、古来より交通の要所として重要な位置にありました。こうした交通の要所には自然と人や物が行き交うもので、江戸時代には坂田郡内でもいくつかの宿場町が営まれました。さて、こうした利便性の高い交通路は、戦時になると軍隊の移動経路として用いられました。戦争において、相手より優位に立つためには、少しでも早く相手方の動きを察知することが必要です。戦国時代には、主要な交通路の付近では敵の動きをいち早く察知できるように山上に城が築かれました。特に国境にある城は、敵軍の侵攻を警戒し、領国に入れさせないよう最前線で防備する重要な拠点であったのです。

## 八講師城

坂田郡山東町梓河内

『山東町史』に「京極氏の詰城」とある八講師城は、標高四八〇mの峻険な山上に存在しました。『改訂近江国坂田郡志』では「八講師の砦」として紹介されていますが、主要部分の郭、礎石の散乱、虎口での石積み、石段跡等の遺構は八講師城と呼称するにふさ



八講師城跡平面図

わしいものです。城主については多賀豊後守高忠や澤田民部大輔が言われています。

## 佐々木氏支流大原氏の館

### 大原氏館

坂田郡山東町本市場

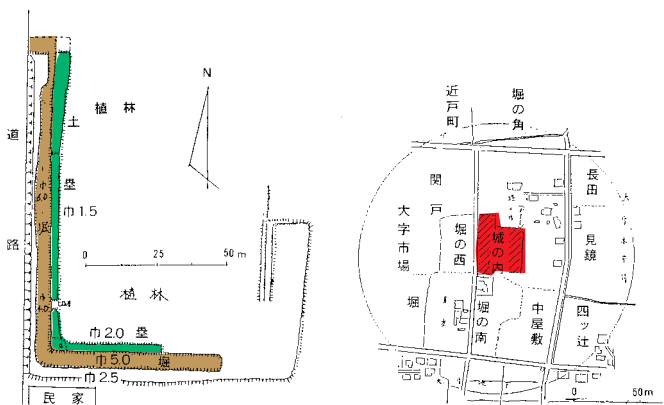
大原氏館は、鎌倉時代に佐々木氏が四氏に分流した時、大原荘を与えられた重綱を祖とする大原氏の居館です。

大原氏は八千貫の地頭として室町時代には將軍の奉公衆に列しましたが、信長により滅ぼされました。

現在、植林地・竹林の中に大きなL字型の立派な土塁と堀が残されています。平地の城館



大原氏館跡遠景



大原氏館跡平面図

でこうした遺構を残すのは大変珍しいといわれています。